WORLD AIDS DAY DECEMBER 1 THE TIME TO ACT IS NOW—

AIDS(Acquired Immune Deficiency Syndrom) 1

2015 12

AIDS の歴史: 1981 年: 最初の臨床例は UCLA からのカリニ肺炎のレポート。 いずれもホモの男 & Injection Drug User でニューヨーク居住歴があった(年内に 120 名死亡)。 1982 年: AIDS(後天性免疫不全症候群)と命名、5 大陸で存在を確認。

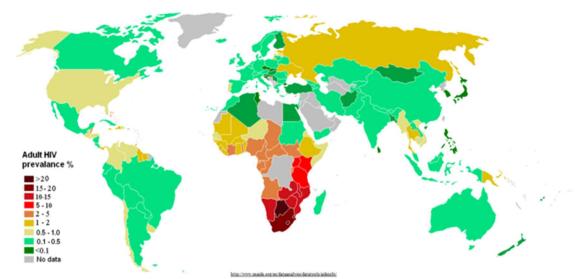
1983 年: Robert Gallo(NIH)が HIV ウイルスを発見(ほぼ同時にパスツール研の Luc Montagnier も発見、1985)と発表される。 しかし 1989 年シカゴ・トリビューンは ギャロがモンタニエから送られた HIV のサンプルを自分が発見したものとして発表した不正を報道。NIH と United States Office of Research Integrity(後の ORI: 米国研究 公正局)はホフマン・ラ・ロッシュ社の協力を得てギャロの HIV はモンタニエから送られたものであると結論(They concluded that the virus used in Gallo's lab had come from Montagnier's lab)。 ギャロ(現メリーランド大ボルチモア校)とモンタニエ

(Nobel Prize Laureate, 2008) はその後も協力。(モンタニエの) HIV が AIDS を発症すること確認したのはギャロの功績だが無視される。 郡司篤晃(厚生省生物製剤課長、私の指導教官でした) は 1982 年知人(村上省三、女子医輸血部)を通じてエイズ感染の危険性を知り、1983 年 6 月にエイズ研究斑を召集したが血友病の薬害 AIDS を防げ

ず。(Food & Drug Administration の Frances Kelsey は 1 年以上製薬業界の圧力に耐え、49 カ国で発売のサリドマイドの催奇形性データを要求、認可せず。全米で 4000 例と予想されるサリドマイド禍を防ぎ FDA の権威を高めた。一方オーストラリアの産科医 William McBride はサリドマイドの催奇形を初めて報告、後にデータ捏造で解雇)。 1985年日本初の AIDS 感染例(薬害 AIDS)。1989年 AIDS 予防法(記憶では、年齢性別のみ知事に報告)*。
診断法:HIV-1,-2 に対する抗体検査(スクリーニング)と NAT



(核酸増幅法)検査がある。 米国では唾液を使う自己検査用キットを FDA が認可 (2012、輸入可能)。 現在輸血用血液は HB, HC, HTLV-1, HIV, ヒトパルボ B19, 梅毒を検査、ウィンドウ期間 (抗体検出可能になるまでの期間) は HB,HC で 30 日程度、HIV では 10 日前後。現在 HB,HC は 1-10 万単位の輸血に 1 回。HIV は現在まで 4 例。



^{*&}lt;u>感染症法 5 類、全数把握、年齢、性別、国籍を知事、特別区長に 7 日以内に届出</u>。日本の罹患率 (morbidity) は 10/10 万人程度、HIV 感染率はその倍(2 万人)。 全世界で 3500 万人。